

★8月は、「あいさつ・声かけ強化月間」です。

## = 地域で子供を見守りましょう =

愛別町では通学路の横断歩道において、児童が安全に信号を渡るための誘導や指導、また、地域全体で「見せる防犯」を推進し、不審者などへの防犯対策を行うことを目的として、『こども見守り隊』ボランティアを募集しています。

日頃からのちょっとした「あいさつ」や「声かけ」により、地域みんなが仲良く、一緒に助け合いをしませんか？



沢山のお申込みをお待ちしています。【申込先】教育委員会 6-5115

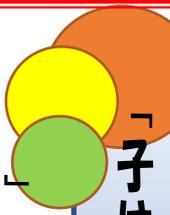
# 青少協だより

第188号

令和7年8月1日 発行  
愛別町青少年育成協議会

### 【会員寄稿】

#### 「子はカスガイ」



(家庭環境部会) 高井 啓  
「四つ葉子ども会育成会代表」

「子は鎡(かすがい)」という言葉がある。いま一度手元にある辞書を紐解けば、「子に対する愛情によって夫婦の間が保たれ、夫婦の縁がつなぎとめられるもの」とある。たとえ仲が悪くとも、子どもへの共通の想いが夫婦の絆を強める意だが、果せるかな、私と元妻は一人息子が物心つく以前に離縁してしまっている。それから十年近い歳月が流れ、今年に入って元妻のもとで暮らしていた息子を引き取った。

元妻とは復縁の話が何度も持ち上がったが、毎度話のまとまる直前で反故にされてきた経緯がある。詳しい事は割愛するにしても、その都度、



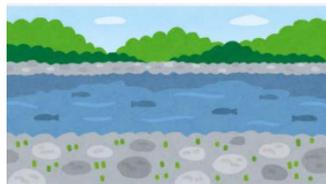
息子も期待と落胆を繰り返し、しまいには「自分一人で北海道に行っちゃダメ?」と元妻に啖呵を切るほどだったという。

そうした中、決定的なきっかけが起こった。複数の小学校の児童が集まる大規模な中学校へ入学はしたものの、息子は新たな学校生活に馴染めず早々に不登校となった。不登校云々の話しは昨今珍しくもないが、それでも我が子のこととなると気を揉むものだ。幸いにして身内に教育関係者が多く、さまざまアドバイスと共に「環境を変えてみる」ことを強く勧められ、今回の話へとつながった。

#### 自身の生まれた

街とはいえ、本人にとってはほとんど思いつかないところでの生活は、人生経験も浅く、また思春期に差し掛かった敏感な時期にあつてはとてつもなく大きな変化であつたに違いない。だが、周囲の支えもあつて、毎朝楽しそうに学校へ向かう後ろ姿を追っていると、良い方向へ変化してくれたと如実に感じることができた。

変化という意味では親である私も同様で、これまで関わることになった同年代の子を持つ親御さんら



との新たなご縁が生まれたのはその最たるものだ。人口の絶対数が限られた街ではあるが、これまで触れることのできない新たな街の一面に気づかされたことは言うまでもない。

そう考えると、夫婦間に限らず、地域社会とその親・家をつなぐ「カスガイ」もまた、子どもという存在なのかもしれない。

地域を結ぶ懸け橋である存在、子どもというのは地域にとってかけがえのない宝なのだと思えて感じさせられる。



### 【会員寄稿】

#### 「子どもは

#### 好きな人から学びます」

(家庭部会) 千葉 憲史  
〔愛別町幼児センター園長〕

以前から、愛別の子どもたちの素直さに感心していました。愛別町で仕事をさせていただいている今、交差点で子どもたちの横断と重なり車を停めて道を譲ると、小学生にも中学生にも深々と頭を下げられ驚

# 「青少年の被害・非行防止 道民総ぐるみ運動」

## ～ 北海道知事メッセージ ～

北海道の将来を担う青少年が、豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに、夢と希望をもって成長していくことは、私たち道民の願いです。スマートフォンやSNSの急速な普及など、青少年を取り巻く環境が一層多様化する中、SNSやオンラインゲームを通じて知り合った面識のない被疑者から性犯罪等の被害を受けた児童数が高い水準で推移し、児童ポルノ事犯等で検挙される少年も近年急増しています。SNS等を利用する時間の増加に伴いトラブルに巻き込まれるリスクが高まると懸念され、インターネット利用におけるこどもの性被害等を防止することは喫緊の課題です。また、いわゆる「闇バイト」に応募した少年による組織的な特殊詐欺や強盗等への加担、違法性等を理解せず利用してしまうオンラインカジノが大きな社会問題となっているほか、大麻をはじめとする薬物事犯の検挙人員が高い水準で推移するなど、青少年の置かれている状況は、被害と非行の両面において深刻なものとなっています。

本道の未来を担う青少年の育成は、家庭、学校、地域社会など、社会全体で取り組むべき課題であり、私たち道民が一丸となって、青少年の被害と非行の防止に取り組んでいくことが重要です。道では、最重点課題と7つの重点課題を掲げ、市町村や関係機関・団体等の力を結集して取組を進めてまいりますので、多くの道民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

○ 最重点課題  
インターネット利用における  
こどもの性被害等の防止

- 重点課題
- (1) 有害環境への適切な対応
  - (2) 薬物乱用対策の推進
  - (3) 不良行為及び初発型非行(犯罪)等の防止
  - (4) 再非行(犯罪)の防止
  - (5) 重大ないじめ・暴力行為等の問題行動及びその被害への対応
  - (6) 社会を明るくする運動の推進
  - (7) 「道民家庭の日」の普及

令和7年(2025年)7月

北海道知事 鈴木直道

いています。そんな子どもたちの様子を小中学校の校長先生にはお伝えしていますが、本当は保護者や子どもたちの育成を担う町民の皆さんにお伝えしなければいけないと思っています。この紙面をお借りし、声高らかに、愛別町の子どもたちはしっかり育っていますとお伝えしたいと思います。

見慣れた景色の中では、その良さが見えにくかったり、気付かなかったりするものと思います。外からこの町を見てきた私にとっては、子どもたちの凛(りん)とした姿がより鮮明に映るのだと思います。素直さと元気な挨拶、本当にしっかり育っていると感じます。

例えば、挨拶の大切さはいつの時代も変わることはなく、どの町もどの学校も目指す子ども姿の一つに掲げています。

ですから、挨拶ができる子どもたちは、町や学校の誇りと言えます。

加えて、挨拶の習慣を身に付けた子どもたちは、この先さらに多くのひととの



関係を築くことができず、人や人とのつながりから徐々に学び、社会の担い手として立派に成長していく、そんな期待感も膨らみます。

ところで、「子どもは好きな人から学ぶ」と言われます。

子どもがしっかりと育つには、子どもと大人の「いい関係」が不可欠であることを意味しています。

小中学校で勤務した経験から、これは間違いないと思います。そのためには、大人と子どもの違いは



あっても、互いを尊重し何よりも「話せる関係」であることが大切です。

地域の方々がるで我が子のように子どもたちに声をかけ、子どもたちが笑顔で答える姿を見て、これだと確信します。

そして、その背景には家庭・学校・地域の存在があり、互いの役割が機能する土壌があるのだと想像しています。

